

磐城時報

編輯者 磐城時報社
印刷所 磐城時報社
發行所 磐城時報社
電話 一〇〇
廣告料 行書 一ヶ月 金五十五銭
日刊 日曜 休刊

内田鐵相の視察

來月二日の日程決る 平小鐵路線決定の鍵?

東北地方巡視の途次にある内田時平から政友部會發起になる歡鐵相は來月二日午前十時三十四分迎會を催す筈だが今會の誓分平驛著上り常磐線列車で來平直ちに平驛會議室で從業員に對し約二十分間訓示をなした上本格的建設工事に着手する平小鐵道線の下檢分を兼ねて江名漁港、小名濱商港ならびに湯本方面經由線と密接な關係を有する入山、磐城兩炭礦の視察、即日歸京するが、當日の日程は左の如く決定した。なほ當日午後二時

各故人の葬儀に 局長代理が參列

弔問・見舞に最善を盡す

遭難車体は全部焼却

鐵道省では今回の慘事遭難死亡なほ鐵相代理として來平した木者に對しては内田鐵相、大島仙村本省旅客課長は二十九日二時鐵局長より香奠及び花環を贈つ廿五分發常磐線列車で郡山驛にたが、更に今日行はれた各故向つた、今回の全負傷者に對し人の葬儀にはそれ、左記の高ては仙鐵局長から取敢へず見舞等官仙鐵局を代表して弔問葬儀金一封十圓を贈つた車体の焼却に參列せしめた。

消えやらぬ衝動に 悲しき葬送の儀

晩秋の冷雲低く垂れて けふ西村屋鈴木家の盛葬

驚きが大きかつただけに悲しみの頬を硬直させた嗣子新右工門日から重なるしい夜が一丁目西ある、令兄堅助氏の頼もたゞ無村屋の自邸にざわめきと共に明量の感慨に掩はれてゐるばかりけ暮れて晩秋の涼氣が肌をうそけ微風を送る卅日、もう今日には葬送の式である、突然まき起つた旋風の様な運命の嵐にはな子未亡人を始め遺族の人々の胸は何の感慨、何の思ひ出—唯失した時がめぐつて來ただけだつめかける葬儀委員の人々運び込まれる神、道路せましく飾られた五十基の花環、轍を嚙む様に後から後から續いて來る弔問の人々に一丁目の町は押しつけられた低雪の下の悲しい難關だ、奥の間の黒布に掩はれた靈柩の上には故人の像を今はこれのみに残す黒リボンの寫眞が飾られた、双眸を眞赤にはらせた未亡人、消えやらぬ衝動に蒼白

情夫と共謀し 磐崎村大 目見得詐欺

上ノ内九生れ袴玉縣大宮町字境林三郎方佐藤三郎(三三)は去月初旬前借百圓で同家の雇はれたが去る十日午後六時頃無断逃走したが、情夫新瀉縣北魚沼郡城川村久三郎二男西脇勇(二六)に誘拐されたものらしいが或は實家に立寄るからと三十日抱主から平署に捜索方を願出た。

防火思想を強調す

防火宣傳デーの平組行事

平消防組は來月五日の防火宣傳デーを期して秋期檢閲を執行す次いで午後一時から全町一齊に電檢査をなし終つて谷川瀬田團當日は組員百五十名が平署前で模擬火災の水勢試驗を催して集合、八時から第三小學校庭で機械器具の點檢、規律訓

平町の縣稅滯納額 總額二千七百圓也

遂に最後の差押へ處分

平町に於ける九月末現在各種縣稅滯納は合計四百四十七名、總額二千七百廿九圓二錢に達して居り再三の納入督促にも應じないので遂に最後の非常手段に出るこになり今日伊藤縣知事宛差押へ處分の申請をなした。

憤慨の一撃

聞の巷の亂闘

平町新川町建具職林太郎(二〇)九圓六八錢△營業収益稅七二名、四五二圓〇六△所得稅付假名は去る二十八日午後十一時加稅二〇名、一七三圓二五△ころ南町酌婦街を素見中一杯機木から平署に前借詐欺の告訴。

玉川村宮内助役に 突きつけた辭職勸告書

抑々村政自治下に在つて共存共榮を理想となす吾人村民は常に最も公平にして明き自治の實現を要望して止まざるものなり

娘を種に 前借詐欺

坑夫青柳徳太郎(六八)は去月十二日長女鶴枝(一七)を平町三丁目カフエー太陽こと佐々木金次郎方に女給として前借金四十圓を受取つたま言を左右にして娘を住込ませぬので三十日佐々木から平署に前借詐欺の告訴。

思ひにして明月を視たるの感に打たれ向村將來に望みを深からしめたり。然る處助役宮内久枝氏は一昨年來村長選舉より昨年助役の選定に際會すや同氏の採りたる行爲は悉く背徳の所業ならざるなく之れが爲め村政を裏面に於て極度に紊亂せしめ自治を破壊したるものなり。就中最も憎む可きは吾人が理想村長として敬慕せる野崎滿藏氏に對し一度縣議立候補のため辭職するに對して宮内助役は野崎村長に對しては絕對に反對行動を爲さざる旨明言しながら野崎

若松署長横山警視、柴田平署長、井上平組頭、關内縣議、で告別式を執行、仙鐵局長弔辭魚商松本光次(二五)兩名が林を捕へて「貴様は俺の腕時計を盗んだ奴だ」と悪罵を浴せられたことから口論となり憤慨した林は自分の下駄を振り上げて丸山の左顔部を亂打全治二週間の裂傷を與へ廿九日平署に檢舉された。

平署對入山 劍道試合

平署對入山 炭礦劍道試合は來月三日午後一時から入山小學校道場で行ふ。

紺屋町舗裝の 受益者負擔額

平町土木受益者負擔額 委員會は來月四日午後一時から開き紺屋町地内國道舗裝受益者負擔額割當を協議。

板の間稼ぎ専門に

大膽不敵の強賊捕る

余罪十數件を自白す

小名濱町下町小松信藏方漁夫中なるが本年は團員一同制服とし、田輝(一八)假名は去る二十六日木綿綿着物、モンペイ、エプ同町宇船引場菓子商山本勝三郎方より現金十二圓を窃取平署に申し姿になり團旗を作製し十二圓の結果去る八月中小名濱町湯屋吉田屋こま小松方に入浴中の神奈川縣三浦町宇長井町船長木地本新造氏の衣類中から番臺の隙を狙つて現金百六圓を窃取したのを手始めに同様手段で十數件の板の間稼ぎを働らいてたことを自白した。

主なる被害は八月十日小松方の貴重品預場より千葉縣健田村漁船高坂丸青木石松の金腕時計、同月廿日千葉縣富浦村源富丸船員高山卯之助の八圓五十錢、外十件の板の間稼ぎの外にも數件のネリを働らいてゐる。

三阪澤渡 三阪澤渡兩村農産品評 聯合農産物品評會は來月三、四兩日澤渡小學校で開く。

▲十丹圓賭博檢舉 好間村大字北好間字權現堂隅田川炭礦坑夫村上欣一(四一)方で二十八日午前十一時ごろ同人並に同僚の三瓶健藏(三一)の兩名が十丹花札賭博開帳中を踏込んだ平署員に檢舉された。

相馬支局通信

▲石神女子青年團 相馬郡石神村女子青年團は團長林へさんの努力で模範團と稱されて

娘十六・故郷戀し

主家を飛び出す

赤井村大字高萩字下代二七能田伊義長女富代(一六)は去る一日足利市大正町織物業丹羽藤次郎方に女工見習として雇はれたが廿三日夜女心の淺はかさから故郷戀しく家出したので實家に立寄つたなら取捕へて呉れと冊日雇主藤次郎から平署に捜索願。

來る十一月一日熱田神宮遷座式に付敬意を表し謹んで臨時休業可仕候
昭和十年十月三十日

石城郡銀行組合

- 株式會社 磐 東 銀行
- 株式會社 常陽銀行平支店
- 株式會社 常陽銀行湯本支店
- 株式會社 常陽銀行植田支店
- 株式會社 常陽銀行勿來支店
- 株式會社 七十七銀行平支店
- 株式會社 福島銀行平支店
- 株式會社 福島銀行平支店
- 株式會社 福島銀行平支店
- 株式會社 福島銀行平支店

新車御披露

先に陸の王者三五年の「ダッチブラザーズ」入車以來大方皆様の絶讚を博し御愛乗願ひましたところ今回更に自動車の發祥地とも言はるゝ米國に於て全自動車界にその名を謳はれた「空に星地に銀線」の高級車女王「ホンデアク」號入車致しました。當地方には初めての御目見得にてさぞかし皆々様の御期待に添ふ事と存じます。舊に倍し御愛乗の程を願ひ致します。

昭和十一年
電話三四〇・三四三番

産科 婦人科 院長 木村寅次郎
醫學博士 内木宗八
外科 藥劑師 玄蕃彌一
平町新川町十九
木村病院
電話一六四番

腸胃 門專 院醫科性胃村松
(番七〇一電 平町南町)

内科 胃腸病科
花柳病科 性病科
泌尿器病科 皮膚科
肛門病科

外科 一般外科 内臓外科
性病科 X光線科
入院隨意(自炊の便あり)
元赤心堂病院
安齋外科醫院
電話四七五

内科 小兒科
花柳病科
藤沼醫院
電話四五〇七番

環見院葬送の際に遠路御會葬被下且つ御町重なる御香奠を賜はり難有奉鳴謝候拜趨御禮可申述の處乍略儀以紙上御禮申上候 敬具
昭和十年十月三十日
兄 鈴木 木 堅 助
弟 鈴木 新右工門
外親 戚 一 同

謹啓 父今朝吉儀 不慮の災禍により去る十月二十七日午後六時旅行先於て死去致候に付來る十一月一日午後一時自宅に於て告別式相當可申候。埋葬の儀は郷里山形縣新庄町にて神葬式により執行可致候間此段御通知申上候
昭和十年十月二十九日
福島縣石城郡内郷村大字白水
男 杉 山 朝 光
親戚 笹 權 十 郎
總代 笹 清 兵 衛
友入 伊 藤 軍 二

た惣菜用 さつま揚 吉原揚
かまぼく 折詰生造
平町一丁目(電話一四一番)